

葉室麟さん 最後の小説

ぎょうてん

『暁天の星』『星と龍』を読む



2020年1月24日（金）18時半～20時

会場：西南学院大学百年館

福岡市早良区西新、地下鉄西新駅から徒歩約5分

ゲスト



東山彰良さん

作家



植野かおりさん

立花家史料館館長



南野森さん

九州大学法学部教授

会費：無料（事前申し込み不要）

主催：シンポジウム「葉室麟作品を語る」実行委員会

共催：西南学院大学ことばの力養成講座（問い合わせ：法学部・田村 mtamura@seinan-gu.ac.jp）

直木賞作家の葉室麟さんをしのび、母校の西南学院大学でシンポジウムを開催します（翌1月25日は葉室さんの誕生日でもあります）。ゲストには、西南学院大学の後輩で直木賞作家の東山彰良さん、武将・立花宗茂を描いた葉室さんの小説『無双の花』にゆかりの立花家史料館館長・植野かおりさん、対談や取材旅行をともにした九州大学法学部教授の南野森さんをお招きし、葉室さんが歴史小説を通して現代に問いかけようとしたことを二つの作品を中心に読み解きます。みなさまのご参加をお待ちしております。

葉室さんは1951年、北九州市小倉生まれ。西南学院大卒業後、地方紙記者を経て、歴史文学賞を受賞した『乾山晩愁』で2005年に作家デビュー。2012年に『蝸ノ記』で直木賞を、2016年に『鬼神の如く 黒田叛臣伝』で司馬遼太郎賞を受賞するなど、12年間で60冊を超える小説やエッセー集を発表。2017年12月23日に逝去された後も次々に作品が刊行されました。明治の政治家・外交官、陸奥宗光を取り上げた『暁天の星』（2019年5月刊、PHP研究所）と鎌倉末期～南北朝時代の武将・楠木正成が主人公の『星と龍』（2019年11月刊、朝日新聞出版）は、いずれも病と闘いながら雑誌連載を続けた最後の小説です。

